

F/T13

フェスティバル/トーキョー

「焚火」メンバープロフィール



■Takuji

1971年東京にて、古典楽器店を営む父とクラシック・ギタリストの母の間に生まれる。Little Creatures、Double Famous、Music in Elevatorなどのグループやソロ・ユニットのKAMA AINA、青柳拓次名義で国内外のレーベル（Domino/geographic、Rumraket、CHORDIARY、SPEEDSTAR INTERNATIONAL、commonsなど）から数々の作品をリリース。ClubやラジオのDJ、プロデュース、アレンジ、選曲、俳優、映画やCM音楽の作曲、絵本、詩、エッセイ、写真など、様々な分野で活動。

2010年に東京から沖縄に移住。自然農園に暮らし、心と身体のホリスティックなケア（気功、整体、食養など）を学び始め、太鼓と民謡を木津茂理氏に師事。2013年、約3年の準備期間を経て、世界中の様々な民族、部族のスキヤット（意味を持たない詞）をオリジナルのメロディに乗せて唄う、新たなるソロ・ユニットTakujiをスタート。



■木津茂理(Shigeri Kitsu)

横浜生まれ。幼少時より、民謡（うた）を尺八奏者である父、木津竹嶺に、三味線を本條秀太郎師、太鼓を山田鶴喜美師に師事。3歳で初舞台を踏み、以来テレビ、ラジオの民謡番組に数多く出演する。

1997年「第一回ウズベキスタン世界民族音楽祭」に、太鼓を携え一人で出演し審査員特別賞を受賞。以来「太鼓を打ちながら三味線を弾きながら民謡をうたう」独自の演奏スタイルを確立する。2002年、津軽三味線の澤田勝秋と、ユニット「つるとかめ」を結成。アルバム「つるとかめ」をリリース。2004年には同ユニットで、アテネオリンピックシンクロナイズドスイミングの音楽演奏を担当。

単独、ユニットでの数十か国に及ぶ海外公演の実績を持つ。

坂田明、細野晴臣、青柳拓次といったジャンルを超えたミュージシャンとのライブ、制作活動も同時に展開。2007年から本格的にソロ活動を開始。2009年、アルバム「ジャパニーズ・ボイス」をリリース。



■大島保克 (Yasukatsu Oshima)

1969年石垣島白保生まれ。八重山諸島や沖縄各地に伝わる歌を丹念に掘り下げ歌い継ぐ"伝統島唄の継承者"としての一面と、積極的にオリジナル楽曲を歌い様々なアーティストとのコラボレーションや楽曲提供を行う"新たな島唄の作り手"としての一面を併せ持ち、いずれも"自身の島唄"として歌い上げる。現在までに6枚のソロアルバム、2枚のコラボレーションアルバムをリリースしているほか、楽曲提供など多数の作品に参加している。唄と三線による独りでの演奏スタイルを基本に、関東を拠点に、世界までその活動を広げている。

<http://www.oshimayasukatsu.com/>

F/T13

フェスティバル/トキョー



■アン・サリー

2001年のデビュー以来、数多くのアルバムを発表、数々のCMや映画主題歌を歌唱し、全国でライブ活動を行う。2010年には7枚目のアルバム「fo:rest (フォレスト)」をwebとライブ会場で限定販売。2013年11月には雑誌「ガーデン&ガーデン」に4年にわたり執筆したコラムに加筆した、初の著書『森の診療所』を発表予定。また同時に、他アーティストとの共演を集約したコンピレーション『森の診療所...featuring Ann Sally』をリリース。穏やかな暮らしから紡がれる、時代やジャンルの枠を超えた音楽性と、柔らかく深みある唯一無二の歌唱は幅広く支持されている。



■世武裕子 (Hiroko Sebu)

パリ・エコールノルマル音楽院映画音楽作曲科出身の作曲家でピアニスト、シンガー。

『イングリッシュ・ペイシエント』『ベティー・ブルー』『善き人のためのソナタ』など数多くの映画音楽を手がける作曲家ガブリエル・ヤレドに師事。ジャン＝リュック・ゴダール監督の『気狂いピエロ』などで知られる作曲家アントワヌ・デュアメルからもその才能を賞賛され、同音楽院の卒業制作では満場一致の主席にて卒業。帰国後、2008年にデビュー。

これまでに4枚のアルバムと1枚のシングルをリリースし、Fuji Rock Festivalをはじめとした多くのフェスティバルやアートイベントに出演し、全国ツアーも行う。自身の音楽的ルーツである中東やアイルランドの民俗音楽、テクノ、ジャーマンメタル、フリージャズなど、ジャンルに縛られない自由さと独創性を持った表現者。作曲家としても、ドラマや映画、CMと幅広く活躍中である。



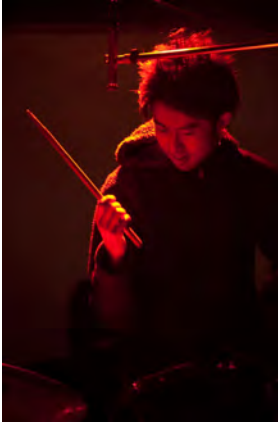
■小林真樹 (Shinju Kobayashi)

1981年11月25日北海道生まれ、長野育ち。

幼少期からレゲエドラマーの父の影響で多ジャンルの音楽に囲まれ育つ。弟はSTONEDROCKERS等の天才ギタリストYOTA。17歳の時に単身ニューヨークへ渡る。Tony Stevensonに師事し修行を積み、2005年に帰国。帰国後はジャンルや世代を超えて様々なアーティストと共演、サポートベーシストとして多岐にわたる現場で活躍、またトラック・メーカーとしても活動。ソウル、ファンク、ジャズ、ラテンからポップスまで、幅広い表現力を発揮した。2010年からはNAOITO & 雑食FAMILIAのメンバーとしても活動。同年3月3日に1st ALBUM『雑食familia』、2011年3月16日には2nd ALBUM『379days』をリリース。また日本のレゲエ界の重鎮、PAPA U-Geeの2009年リリース『NATURAL』、2011年リリース『CONNECTION』には弟のYOTA KOBAYASHIと共にほぼ全曲で演奏、リディムトラックのプロデュースを手掛けている。2011年(仮)ALBATRUSに正式加入。クールでホットなバンドの推進力として即座に順応。最近では(仮)ALBATRUSの盟友越野竜太の初のソロアルバム2012年5月23日リリース『GOODBYE DAY, BRAND NEW DAY』にレーベルメイトのcro-magnonから大竹重寿、金子巧と共に参加している。

F/T13

フェスティバル/トーキョー



■千住宗臣(Muneomi Senju)

BOREDOMS, PARA, ウリチパン郡, COMBOPIANO, DATE COURSE PENTAGON ROYAL GARDEN, KOMA, EP-4 などに参加、在籍し、MELZBOW, BILLRASWELL, ARTO LINDSAY, 大友良英, 小山田圭吾(cornerius), 高橋幸宏や細野晴臣 (YMO), ダモ鈴木 (CAN) などと共演。

七尾旅人, 石橋英子, UA, 原田郁子, 原田知世, 湯川潮音, sighboat, 熊谷和徳, 後藤まりこ, 阿部芙蓉美, 相対性理論, 土岐麻子, Schroeder-heads, nikiie, 口口口キセル, 伊藤ゴローなどのレコーディングやライブをサポート。様々な境界線を飛び越え活動している。またDJ1010としても活躍中!!!

<http://muneomisenju.com/>



■塩谷博之(Hiroyuki Shiotani)

1956年1月7日生まれ。十四歳でクラリネット、十七歳でサキソフォーンの習得に取り組む。

1985年頃から京阪神のライブハウスを中心に演奏活動に入る。内外のジャズミュージシャンとのセッションの機会を得る一方、ロック、ポップスのレコーディングに参加するなど、ジャンルを超えて幅広く活動する。

1992年東京に拠点を移す。ソプラノサックス、クラリネットのソロ演奏を中心に、様々な分野の音楽家との共演、また作編曲など、独自の音楽表現を目指す。

<http://www23.ocn.ne.jp/~sax-box/>